

平成 23 年度第 2 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成 23 年 6 月 27 日（月） 13：30～15：30

II. 私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：難波委員、三尾委員、竹熊委員（スカイプ参加）

井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 検討事項

1. 私立大学情報教育協会総会報告

事務局長より、「5年先の授業デザイン」として考えるべき事について以下のような説明が行われた。

私立大学情報教育協会において、5月31日に総会があり、30の学問分野における授業モデルを紹介した。その際、学生の基礎学力、就職活動など分野共通の課題があることから、そうした共通課題を見据え、5年先の授業モデルを検討すべきである。また、学習指導要領が改訂され、暗記型ではなく、自ら課題を見つけ、発展させる教育が必要と言われている。新要領では、総合的な学習の時間の中で、探究学習、共同学習、体験活動の重視という3つの課題を中学から学ばせるようになっている(22年度から開始)。従って、新しい学習指導要領で学んだ学生が大学に入学してくる28年度を想定し、「未知の時代を生き抜く能力」を持てるような若者を育てるための新しい学びの力を大学教育で行わなければならない。具体的な教育改善の工夫については「事業報告」10 頁下段から 11 頁上段に示している。

2. 教育学教育における到達目標の確認

日本学術会議でサンプルとして出された参照基準が出されたが、その資料の 10 頁に教育学を学習したものが有する固有の能力が 6 点挙げられている。

その最後に示された「教育学とは何かについて、それを専門としない他者にそれを説明できる」という文は、まさに、我々が第 1 の目標としているところである。また、12 頁から 13 頁に学習方法や評価方法が示されているが、とりわけ目新しい点は見られず、私情協の考え方の方がより具体的でわかりやすいのではないか。しかし、5年先を基軸として、授業デザインとして打ち出すためには、もう少し議論が必要である。まずは 30 年 40 年先の社会を見通して、教育や学びについて理解して社会に関与できる力(学びを組織化し、学びの力を活用し、難しいことをやさしく説明する)を育てなければならない。

3. 学士力実現に必要なICT活用の授業モデル案の検討

(1) 検討の方向性について

事務局長からの提案として、以下の意見が出された。

ソーシャルネットワークが発達して、授業実践も公開している状況(=学びのインフラ)においては、理論的な学びはICTにまかせ、実際に教室で行う授業はアナログ(昔の寺子屋のような対面式、マンツーマン指導の形態)中心に戻っていくのではないかと。逆に守らなければならない部分ではないか。これからの時代は、知識を学ばせるだけではなく、人間としての修練をどのように学ばせるのか、知識、心、感性といったものをどう育てるのかを見据えて、ご検討いただきたい。

参考例として挙げた国際関係学に関するモデルとしては、座学の他に演習、場合によっては海外フィールドワークも必要としている。教育学も、そうした形をとり入れてほしい。なお、国際理解教育論の部分については、国際関係学との差別化のため、国際理解を中心に据えるのではなく、国際的な視点から教育学を学ぶという形にしてほしい。(例えば教育と貧困との問題など)

その後、各委員の体験にもとづく意見が出され、グループ活動を導入させる場合においても、教員の力量の問題で、本来培うべき学生同士の相互活動をさせられない場合もある。ファシリテーターとして、教員がいかに関与していくかが大切という意見で一致した。

(2) 今後のスケジュール

最終原稿は来年秋を予定している。今年度は事前アンケートを行う予定である。従って、モデル案としては、アンケートに答えやすいように、アバウトな形で提示する。難波先生は、退職され、新しいメンバーが加わったとしても、最終原稿刊行までは、アドバイザーとしてはいつていただくことが確認された。

(3) 具体的な作成方法

具体的な作成方法について、質疑応答などが行われ、具体的な方針が確認された。特に今回のフォームは、前回のものとは項目自体の変更もあったため、その内容についての確認作業が行われた。

また、国際関係学の教育改善モデルを検討し、最終的にこれまで示したような実際の授業を紹介する形でのモデル案ではなく、それぞれ課された到達目標に近づくために4年間かけて学ぶ「理想的な授業」について、あまり具体化せず、アンケートをする際の資料として、その考えだけを提案する形で示すこととなった。到達目標1-②、到達目標3-②のモデル案は具体的すぎること、長文すぎること、到達目標3-②案は国際関係との差別化が必要であることなども踏まえ、全体的に2頁に縮小する形で全面的に書き換えることとなった。到達目標2-③のモデル案についても、具体的すぎる「授業」のような表現を控え、教育学全般に適用できるようなもの書き換えることとした。

3.今後の検討スケジュールについて

7月20日くらいまでに提案を発信したい。逆算すると、7月4日にそれぞれの修正案を流す。

その後、8月にアンケートを実施する。

4.その他

- ・宿題 授業モデル案の再検討、修正案の提出

到達目標1-②の案：学びの意義、教育の必要性を他者に伝えることができる能力を身につけるために必要な授業モデル。

到達目標2-③の案：学習を効果的に進めるための教育指導の理論と技術の活用を身につけるために必要な授業モデル。

到達目標3-②の案：地域社会、グローバリゼーション等の広い視点から、教育問題を理解し、分析できる能力を身につけさせるために必要な授業モデル。